



“個が肯定され包摂される”社会をつくる  
 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金  
 第 7 期 (2013 年 9 月～2014 年 8 月)  
**年次報告書**



① 英語クラブ ② 定例サロンでの就農体験遠足 ③ 料理教室の様子 in 東京サロン ④ 住宅政策提案書発表シンポジウム  
 ⑤ 「社会的不利・困難を抱える若者応援プログラム集」& 「住宅政策提案書」 ⑥ 各地の路上脱出ガイド ⑦ フットサルチーム“野武士ジャパン”練習の様子

03	はじめに
04	社会問題の解決に参加できる機会と場づくり ——活動概要
05	つながって生きる ——生活自立応援プログラム 大丈夫あきらめない ——当事者への情報提供
06	普通のくらしを取りもどす ——各種相談、被災地支援
08	仕事がしたい ——仕事・就業応援プログラム
09	生きていてよかった ——文化・スポーツ活動プログラム
11	生きやすい社会をととのえる ——ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案 若者をホームレスにしない ——社会的不利・困難を抱える若者応援事業 くらしの基盤をつくる ——住宅政策提案事業
13	市民が社会をつくる ——ボランティア活動と市民参加
15	ありがとうございました ——市民・組織・団体・企業の協力とご参加
16	決算報告
18	誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる ——ビッグイシュー基金とは
19	あなたの寄付が社会を変えます ——会員・寄付制度について



## はじめに

ビッグイシュー基金は、これを読んでくださるあなたさまはじめ、多くの市民のみなさまとともに活動をさせていただき、第7期の活動を終えることができました。数え切れないほど私たちの活動を応援して下さった方々、活動をさせてもらった社会に心から感謝し、ありがとうございました、と申し上げたいと思います。

一方で、内閣による集団自衛権の行使容認など「戦争できる国」へ、“個が否定され排除されかねない”風潮に、私は危機感をもち心配しています。

これまで私たちは、「当事者主体で」「セルフヘルプを応援する」という活動姿勢で、問題に取り組んできました。7年の節目に、この間の活動をふり返ってみたいと思います。

### 現場中心だった第1期から第4期

2007年9月、ホームレスの人と市民が新たな関係をつくれなかと「ビッグイシューコミュニティへ」（第1期07.9～08.8）をめざしてスタートしました。

リーマンショックを受けた第2期目（08.9～09.8）は当事者に読んでもらえる“路上脱出ガイド”を作成、それを市民が配布する「原点・路上からの市民運動展開」をしました。第3期目（09.9～10.8）は当事者による、ホームレスワールドカップへの参加や、野外・劇場でのダンス公演などを通して「市民が当事者になる社会へ」と活動を展開しました。

そして迎えた4期目（10.9～11.8）の後半、2011年3月に東日本大震災、大津波、福島第一原発の事故が勃発しました。壊滅的で歴史を変えるような事態に、それまでの基金の活動をこえて被災地の路上の活動や子どもの応援を中心に「ともに生きよう！東日本」の活動を行いました。

### 現場も、政策提案も、の第5期～第7期

1～3期の現場中心、4期の震災集中の活動を受け、第5期（11.9～12.8）では基金の事業を次の3つの柱に整理しました。

「ホームレスの人々の自立応援」、「ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案」、「ホームレス問題解決へのボランティア活動と市民参加」。

そして、「誰もが排除されず包摂される社会へ」という活動の基本方向を定めました。そのうえで第6期（12.9～13.8）には、懸案の住宅問題に取り組み「社会へ広げる実践ネットワークと政策提案」を始めました。現場も、政策提案も、と活動の幅を広げ、深

めることへのチャレンジでもありました。

### 社会問題の解決を考え参加できる機会と場づくり

第7期は、路上をはじめとする現場との接触頻度を増やしながら、同時に、提案した住宅政策を裏づけ補強する調査、市民シンポジウムや新たな市民活動の立上げなど実践へとつながる活動を行いました。

さらに、第3期目から始まったホームレスの若年化の実態を調べる「若者ホームレス白書」1と2の発行を受け、若者をホームレスにしないための「社会的不利・困難を抱える若者応援プログラム集」を発行し、住宅政策について「若者政策提案書」の作成にも踏み出しました。「社会問題の解決を考え参加できる機会と場づくり」を行ったのが、第7期の活動でした。

これらの活動を1,000人以上のボランティア、2,000人をこえる寄付参加者のみなさまとともに、企業や団体からもご協力や多くの物品の寄付をいただきました。おかげさまで決算では、第5期、第6期の赤字分を埋め、黒字を計上することができました。本当にありがとうございました。

これからも基金は、ホームレス当事者、市民応援会員、寄付参加者、多様なボランティアのみなさんをはじめとする多くの市民が集う身近な“場”となり、開かれ、語り合い、議論でき、社会へ提案し貢献できる、ワクワクする楽しい“場”でもあり続けたいと願っています。そして、“個が肯定され包摂される”社会をつくることに寄与したいと思います。

どうか、この報告書を読まれて、基金の活動・事業への忌憚のないご意見を、そして、ご参加いただきますよう心から願います。

2014年11月15日

認定NPO法人ビッグイシュー基金理事長



佐野章二

第7期は、住宅問題への取り組み、若者をホームレスにしない若者政策提案、当事者を主体とする生活自立応援、問題解決への市民のボランティア参加や寄付参加などの活動を行いました。

ホームレス人口の減少が言われる一方、路上では一見それとはわからない若いホームレスの増加など大きな変化が見られ、問題が潜在化、複雑化しつつあります。基金は安定した住居を失い社会から排除されている人々とともに「問題の当事者が問題解決の担い手になる」「セルフヘルプを応援する」という立場で活動を続けてきました。第7期は若者の応援にまで視野を広げ、「社会問題の解決を考え参加できる機会と場づくり」を行いました。

### （路上脱出ガイド、相談、仕事・就業、クラブ活動―ホームレスの人々の自立応援事業）

今期は、路上生活者と夜回りなどでの接触頻度を高める一方で、当事者自身が主体者として関わる場と機会を増やす活動をしました。

まず、当事者への情報提供の媒体『路上脱出ガイド』は、全国で7地域目の熊本で新たに発行され、福岡、札幌では改訂が行われました。これらの編集・発行作業は各地域のボランティア「ビッグイシューサポーターズ」が担当しています。

また、当事者の交流の場として、道端交流会や当事者による月例サロンを開き、映画会、仕事・就業のこと、英会話・中国語講座、料理教室なども行いました。

生活自立応援では、健康、住宅、法律など各種の相談の他、金銭管理、福祉制度へのつなぎ、を応援。特にアパート入居の相談が多くありました。東京では新たに、緊急用のシェルター、また路上からアパート入居への足がかりとなる「ステップハウス」を設置しました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売サポートをはじめ、大阪では農林業などの体験遠足を実施。理事会では基金10周年を展望して「衣食住&職」の構想を議論しています。

さらに、スポーツ・文化活動では、ダンスチームやサッカークラブ、野球部、歩こう会、鉄道、合唱などのクラブが活動し、新たに英会話、ダイエットなどのクラブが発足しました。

被災地支援では、被災地の路上の情報を収集し、「ビッグイシューオンライン」での発信、(有)ピッ

グイシュー日本の寄付配分プロジェクトに協力しました。

### （住宅について若者政策の提案―ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案）

住宅問題については「住宅政策提案書」を8,000部発行し、東京と大阪で市民参加型のシンポジウムを開き延べ261人が参加しました。大阪では住宅問題を考える新たな市民ネットワークが生まれました。引き続き提案を裏づけ補強する「ワーキングプア層の居住実態調査」の作業を行いました。

若者をホームレスにしないための「社会的不利・困難を抱える若者応援事業」では、支援者が座右において使えるよう「若者応援プログラム集」（首都圏版）を作成し、研究集会を開きました。プログラム集は5,000部を発行、3,500部を配布。そこから「若者政策提案・検討委員会」（宮本みち子委員長）が発足し、若者政策提案の議論を重ねています。

### （ボランティア、寄付、そして広報活動―ボランティア活動と市民参加）

ボランティアの参加希望者には毎月説明会を開きました。ボランティアの方自らが運営する「ボランティアカフェ」を継続して開催、東京でも始まりました。

今期のボランティア参加者数は東京472名、大阪371名の登録者のほか、札幌から鹿児島までの各地で約162名、合計1,005名となっています。

第7期の市民応援会員は468名、企業・団体サポーターは5件でした。第6期から始まった認定NPO法人化と、それに伴う新寄付メニューへは少しずつ参加者が増え、582名となりました。任意寄付参加者は640名、その他寄付者（チャリボン等）369名、あわせて寄付参加者は延べ1,591名となりました。会員、寄付参加者あわせて延べ2,064名、会費と寄付をあわせた金額で4,174万円となりました。5期～6期の赤字を埋めて今期は差益を出し、来8期～293万円を繰り越すことができました。

また、社会への広報や働きかけとしては、基金便りや基金通信「希望前線」を各24回発行、このほかソーシャルメディアなどで発信しました。マスメディアでは雑誌『ビッグイシュー日本版』10周年の余波もあって、数多く取り上げられました。

当事者の生活の自立をサポートするために、健康や住宅、仕事に関する相談などの活動を行いました。特に7期は、路上生活者へ定例の夜回りなどでの接触頻度を高めるとともに、定例サロン、夜回り、映画会などを通じて、ホームレス当事者の人々が主体者となって関われる場と機会を増やしました。

## 【大丈夫あきらめない——当事者への情報提供】

### 路上脱出ガイド

「路上脱出ガイド」はまず、路上を生き抜く上で必要な炊出しや泊まる場所などに関する情報、また仕事をしたい時や、生活保護を申請したい時など路上脱出に利用できる社会資源、さらに最近では社会的不利・困難を抱える若者や女性を主な対象として、“路上に出ない”ための予防的な情報を分野別に掲載しています。

今期は、全国で7地域目となる熊本で新たに発行され、札幌、福岡で改訂が行われました。2009年の発行以来、東京では4回の改訂を行い、48,995部を、大阪では2回の改訂を行い、16,198部を配布しました。路上での手渡しに加え、公共施設や図書館などを通じて配布、特に当事者の利用が多いといわれる図書館には東京で1,918部、大阪で600部を送付しました。今後は予防的項目に加えて、生活困窮者自立支援法（2015年4月施行）にも対応する形で、改訂を進めます。

東京・大阪以外で発行される「路上脱出ガイド」は、各地域のビッグイシューボランティアである「ビッグイシューサポーターズ」を中心に、編集・発行作業が行われています。



### 道端交流会・夜回り

ホームレス当事者が各種支援につながるための窓口のひとつとして、(有)ビッグイシュー日本との合同で定期的な夜回りを実施し、情報提供やヒアリングの機会をこれまで以上に増やしました。

大阪では新たに、クラブ活動など基金の提供するプログラムの情報を掲載し、参加を呼びかける「ビッグイシュー通信」を月に2回発行し路上生活者の方に配布しました。

また、道端交流会は映画会がメインプログラムですが、炊き出しや夜回りの際のアンケートで上映する映画を決め、延べ164人が来場しました。



ビッグイシュー通信 4月号



ビッグイシュー通信 10月号

### 食料品の提供

大阪では「フードバンク関西」から月2回配達される食料品を事務所や夜回りなどで提供。東京では個人の方、UBSグループ(P.15参照)などの企業から寄付された米などをおにぎりにして提供しています。

## 定例サロン

ホームレス当事者が自発的に参加し交流する場づくりとして、東京・大阪では毎月1回「定例サロン」を開催しました。クリスマスパーティや書初めの他、参加者の多くが雑誌販売の仕事をしていることから、熱中症対策や暑気払い料理、雑誌価格改定等のテーマを中心に、当事者主導による議論をしました。

## クリスマス・越年の活動——当事者と共にサプライズの仕掛け

前年に続いて2013年の大阪ホームレス・クリスマスパーティも当事者が主体となり企画されました。今回は「路上を楽しく！」と題し、「路上かくし芸大会」、「段ボールハウス組立ワークショップ」などのおなじみとなった企画と共に、路上で活動するミュージシャンや大道芸人を迎え、様々なパフォーマンスを楽しみました。ホームレス当事者85人を含む203人が参加しました。会の最後には、当事者から一般参加者へ向けてメッセージ付きの紙飛行機を一斉に飛ばす、サプライズ・フラッシュモブにも挑戦しました。



定例サロン（東京）



大阪ホームレス・クリスマスパーティ

越年・越冬の活動では、例年通り、新宿と池袋で行われている越年の取り組みに対し、カンパを行いました。

また、年末年始に役所が9連休となった今期は支援が手薄になることを見越して、初の試みとなる簡易宿泊所、ネットカフェ宿泊費用の半額サポート事業を行い、12人が利用しました。

## 【普通のくらしを取りもどす——各種相談活動】

多様な各種相談の場として、定例で個別相談日を設けています。ヒアリングを通じて弁護士や医師、カウンセラーなど、必要に応じて専門家と連携し、普通の暮らしを取りもどすためサポートをしています。

## 福祉・健康相談

東京では、週に1度の定期相談日を設けました。8月にはボランティアの医師、看護師、歯科医、歯科衛生士、栄養士などの方々にご協力いただき、総合的な健康相談会を実施しました。この相談会には9人が参加、体調管理や健康に不安のある方の相談の他、必要な方を医療機関につなぐことができました。

大阪では月2度の相談日を設け、月に1度、府保険医協会の協力で内科と歯科の定期検診を行い、内科35人、歯科24人が受診しました。この診断をもとに、服薬や、継続的な治療が必要な人には無料・低額診療制度のある病院と連携し、6人が受診に至りました。受診中やその後も同病院のメディカルソーシャルワーカーと共に、どのようなサポートや環境が必要かなどの意見交換を続けています。

またギャンブル・アルコール依存傾向にある人、その他精神的に不安定な傾向にある人に対して、専門家によるカウンセリングの場や、自助グループに関する情報を提供し、必要に応じて自助会への同行なども行いました。



健康相談会（東京）



健康相談会（大阪）

## 住宅相談

7期は住宅相談も多く寄せられました。アパート入居を考えている当事者に向けて説明会を開き、入居に必要な情報を整理し、提供しました。最近、初期費用の問題に加えて入居審査が厳しくなっている状況にあり、路上からアパートに入居することは容易ではありません。好意的な家主から提供された物件に入居するケースや、理解のある不動産屋の仲介により民間借家の契約に至るケースも出てきました。

この結果、自力で入居に至った人は東京2人、大阪3人の合計5人でした。また、一般社団法人つくり東京ファンドが管理するアパート「あわやハウス」の2室を基金で恒常的に借り上げ、緊急用のシェルターと、路上からアパート入居への足がかりとなる「ステップハウス」としての運用を開始しました。



↑ハイツ部屋の様子（大阪市内）



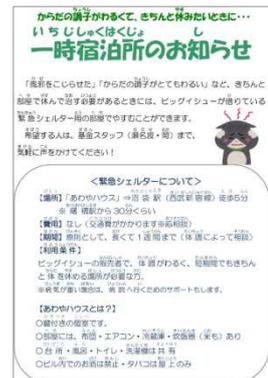
あわやハウス部屋の様子



アパート入居のパンフ



あわやハウスチラシ



## 法律相談

大阪では、顧問弁護士と連携しながら3人の当事者の法律相談をサポートしました。過去の多重債務の整理や、路上生活をしてきた際の不当逮捕に関するものなど、多様な相談がありました。

## 金銭管理

路上で現金を保持することが危険なこと、住所がないために銀行口座を持っていない方がいることから、希望者から貯金を預かり、金銭管理のサポートをしました。アパート入居の初期費用や、就業の際の経費の積立を目的として大阪では16人、東京では27人の利用がありました。

## 被災地支援

被災地支援では、被災地の路上を中心に現地取材して、ビッグイシューオンラインにレポートを掲載し、(有)ビッグイシュー日本の寄付配分プロジェクトに協力しました。

ビッグイシューオンライン : <http://bigissue-online.jp/>

## 【仕事が見たい——仕事・就業支援プログラム】

### 雑誌「ビッグイシュー」販売者支援事業

ホームレスの人が再び就職するための第一歩として、ビッグイシュー日本と連携し、雑誌『ビッグイシュー日本版』販売を推奨し、仕事を継続する上での必要なサポートを行いました。現在「ビッグイシュー」を販売している販売者は全国で140人になります。定期的に販売場所への訪問ヒアリングを行い、相談事業にもつなげる形でサポートを行いました。巡回時の会話の中で体調不良がわかり、病院へつなげるケースもありました。また夏の暑い時期には、熱中症予防のためにスタッフやボランティア手製のスポーツドリンクを配達しました。

### 就業支援の連携事業

依存症傾向や鬱傾向など何らかの心の問題を抱える人に対して、専門家と協力をしてカウンセリングなどの場を提供しました。また自立への道すじを考えるきっかけづくりとしてコーチングのセッションを行いました。

5月には、大阪・南河内にあるNPO「里山倶楽部」において農業と林業の体験会を開催しました。

また大阪市生野区の友好NPO団体と協力して、古民家の庭を改修し作物を植えるなど、地域の居場所づくり事業に関わるアルバイトに2人が就業しました。

このほか、連携団体（西成労働センター）が開催する、とび職や林業、介護者育成等の技能講習の情報を継続的に提供したり、企業や支援者から提供される就業先への仲介や、マッチングを行いました。



ビッグイシュー販売の様子



就農体験の様子

### ビッグイシュー卒業生・就業者へのフォロー

居宅を得てビッグイシューを卒業した方とも年賀状のやりとりや、定例サロン、基金イベント、クラブ活動への参加呼びかけなどを通じて、継続的につながり、参加できる場を開きました。

### ヘアカット・ファッションコーディネート講座

プロの美容師ボランティアの協力を得て、定期的にヘアカットを実施しました。

その他、「ファッションコーディネート講座」などを開き、働くうえでの身だしなみなどを考える場を提供しました。



ヘアカットの様子

### 衣食住&職創造構想

10周年を展望しながら、理事会ではホームレス状態の人々をはじめ社会から排除されやすい人々の居場所であり、働き口でもあるような場をつくることなどを話合っています。衣食住&職創造構想です。具体的にはホームレスカフェ・レストランの話をしながら料理研究家でもある枝元理事が中心になって「おじゃましますカフェ」などの実験を試みています。

## 【生きていてよかった——文化・スポーツ活動プログラム】

ビッグイシュー基金の事業の柱の一つとして、「スポーツ・文化活動応援」があります。ひとりぼっちになって、ホームレス状態にある人たちが友だちを得たり、生きる喜びや意欲を回復する機会として、文化スポーツ活動の充実をはかりました。特に、当事者の自発的な活動をサポートできるよう、3人以上集まり、申請すれば活動経費の半額分を補助するなどのルールづくりを行って、積極的にクラブ活動を応援しました。

### スポーツ活動——ワールドカップイヤーの今年、様々なサッカーイベントを企画・開催

大阪で昨年発足した野球部は、今期からチーム名を「レッドキャップス」と冠して、月1回の定例の練習に加えて、定時制高校の野球チームや学生ボランティア団体との交流試合を行いました。

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」は、東京と大阪で月2回、多くのボランティアの方や当事者をまじえた練習を行いました。6月には野武士ジャパンをモチーフにした劇「NO GOAL」の再演（主催：劇団青春事情）に協力し、7月には野武士ジャパン監督の蛭間芳樹さんの著書『ホームレス・ワールドカップ日本代表のあきらめない力』（PHP 出版）の発行に伴う出版記念パーティを開きました。練習の際に、基金理事の枝元なほみさんによる「おじゃましますカフェ」（当事者と市民の交流ができ、当事者の仕事づくりの場も考える実験プロジェクト）と共同するなど、ホームレスサッカーを通じて当事者だけでなく市民の方々の多くの参加、交流の場を持つことができました。

また、今後のクラブ活動サポートの参考にするため、サッカーに参加した当事者へのヒアリングを行いました。気分転換だけではなく、人とのつながりを持つことができたという声も多く、今後、若者ホームレスや社会的困難を抱えた当事者が交流できるサッカー大会の開催を考える上でも参考になるヒアリングとなりました。来8期にはその結果を生かし、当事者の声を活かすプログラム案を発表する予定です。



野球部（レッドキャップス・大阪）



サッカー練習の様子（東京）



劇「NO GOAL」チラシ



出版記念パーティ集合写真

## 文化活動——自主的なクラブ活動が日々発足

コンテンポラリーダンス「ソケリッサ！」プロジェクトは、リーダーでプロのダンサーであるアオキ裕キさんが一般社団法人アオキカクを立ち上げ、基金と共同で“Dance for social inclusion”を掲げて、当事者による自主的な活動を継続しています。月に4回の練習の他、様々なイベントへの参加や、ミュージシャンとのコラボレーションなどを行いました。

第6期に開催した第3回路上文学賞（作家の星野智幸さん、カメラマンの高松英昭さん主宰）の受賞作品集の配布を行いました。大賞を受賞した鳥居さんは東京新聞（1月9日夕刊）の「作家が生まれる時—それぞれの道」欄で大きく取り上げられ、講演会を開くなど、本賞をきっかけに広く紹介されました。

東京では、5月の定例サロンにてクラブ活動について議論し、歌声サロンなどに続いて英語クラブやゴスペルクラブ、ボーリングクラブ、美術館めぐりなど新たなクラブが立ち上がりました。英語クラブでは講師をボランティアの方にお願ひしました。「あいさつだけではなくて英語で会話がしたい」「英語で道案内をしたい」「映画を字幕なしで見たい」など参加者の意欲も高く、月2回定期的に開催されました。

その他、当事者の自主的なボランティア活動として、NPO 法人グリーンバードの清掃活動プログラムへの参加もありました。

大阪では、これまで67回の活動回数を誇る「歩こう会」によるまち歩きや、鉄道部による和歌山遠征旅行などの行楽企画やジャズとドリップコーヒーを楽しむ「ジャズクラブ」の週1度の鑑賞会、将棋部はオンライン将棋で地方のサポーターと対局を行うなど、様々な自主活動が広がりました。また大阪では新たに「ダイエットクラブ」が発足し、定期的な体重計測やジムでの運動など、当事者の健康改善に取り組む活動も始まりました。



ソケリッサ！



ボーリング



英語クラブ



将棋部



歩こう会



鉄道部

## 【若者をホームレスにしない―社会的不利・困難を抱える若者応援事業】

### 今期のとりくみ―社会的不利・困難を抱える若者応援プログラム集の作成

2009年から行ってきた「若者ホームレス支援事業」を土台に、2012年度に「社会的不利・困難を抱える若者応援ネットワーク委員会事業」を立ち上げ、事業を開始しました。第7期では、ネットワークを活用した当事者支援を行うツールとして「社会的不利・困難を抱える若者応援プログラム集」（以下「プログラム集」）〈A4版116ページ/2014年3月発行〉を発行。首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）で活動している40団体以上の具体的なプログラム内容をはじめ、70団体以上の活動概要、また各分野で抱えている課題を共有するためのコラムなどを掲載したプログラム集は、若者応援に関わる支援スタッフらを中心に全国から送付依頼が相次ぎ、3,000部以上を発送しました（14年8月末現在）。また、3回の研究集会を通じて、支援に関わるスタッフ同士が顔の見える関係を築き、団体のプログラムをオープンにして、知恵と経験を共有する機会をつくりました。



若者応援ネットワーク研究集会



若者応援プログラム集



若者政策提案・検討委員会

### 「若者政策提案書」の発行準備

2014年3月からは「若者政策提案・検討事業」（宮本みち子委員長）を開始しました。国の若者支援政策が迷走し、若者支援がコストとみなされかねない状況の中で、若者の貧困や孤立を防ぐための政策を提案したいと考え、次期（8期）には「若者政策提案書」を発行します。第7期は、宮本みち子委員長（放送大学 副学長）、青砥恭委員（NPO 法人さいたまユースサポートネット代表）、白水崇真子委員（一般社団法人キャリアブリッジ代表理事）、高橋温委員（NPO 法人子どもセンターてんぼ理事）、津富宏委員（静岡県立大学教授・NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡理事長）による「若者政策提案・検討委員会」を立ち上げ、提案書の内容について議論する会議を3月、5月、6月、8月に計4回開きました。

### 若者応援事業の広がり

民間企業との連携では、中央ろうきん社会貢献基金がつくる「若者応援ファンド」に協力をしました。社会的不利・困難を抱え、不安定な就労や無業の状態にある若者を応援するこのファンドに、基金の「社会的不利・困難を抱える若者応援事業」の実践を生かし、企画設計などの立ち上げのアドバイザーをさせていただきました。助成事業は2015年4月から開始されます。

### これからの計画

来期早々にこれまでの議論をまとめ、委員会とともに「若者政策提案書」を発行します。多くの市民の方に手に取っていただき、若者が担い手として活躍できる社会をつくるための方策と一緒に考えるシンポジウムを12月14日に開きます。「中央ろうきん若者ファンド」では、引き続き助成の運営協力や改善提案を行っていきます。

## 【くらしの基盤をつくる——住宅政策提案事業】

### 今期の取り組み——「住宅政策提案書」の発行

収入に応じて、安定した住宅の供給や維持をサポートできれば、路上生活からの脱出や、路上化の予防が容易になることから住宅問題の改善は「貧困問題解決の要」となります。この問題について提案することは「ホームレス問題」に取り組む基金にとって長年の懸案でした。

2013年5月に平山洋介さん(神戸大学 大学院教授) / 稲葉剛さん(NPO 法人もやい理事) / 川田菜穂子さん(大分大学 准教授) / 佐藤由美さん(奈良県立大学 准教授) / 藤田孝典さん(NPO 法人ほっとプラス代表理事) を迎えて「住宅政策提案・検討委員会」を組織し、3度の委員会を開催しました。

前期までの委員会での議論をまとめ、2013年10月に「住宅政策提案書」を発行しました。8,000部を印刷し、これまでに6,200部を無料配布しました。一般の方から住宅問題に取り組む団体、大学、研究機関まで、幅広く送付要請があり、集会やシンポジウムでの資料として使われるなど、住宅の問題を議論するための素材としても活用されました。

※ご希望の方には送料をご負担いただいております。また、基金 HP にはダウンロード可能な PDF 版を掲載しています。



住宅政策提案書発表シンポジウム



住宅政策提案書

1章-不安定居住の変遷と広がり ——野宿から脱法ハウスへ
2章-住宅事情の変化をどう読むか ——増え続ける住宅ローンや家賃の負担
3章-ハウジング・リスクをもつ人びと ——単身者、母子世帯、不安定就労層、障害者、低所得高齢者など
4章-住宅セーフティネットを検証する ——「おぼろげ無の家賃補助と減る公営住宅
5章-住宅政策の再構築に向けての課題 ——投資としての公営住宅の拡充と居住政策へ

住宅政策提案書 目次

### 東京・大阪で市民シンポジウムを開催

提案書発行に伴い「市民が考える住宅政策」と題した発表シンポジウムを開催しました。東京では12月に基金理事でもある、料理研究家の枝元なほみさんによる、平山洋介委員長へのインタビュー「いま、なぜ住宅政策？」を基調に、議論が深まりました。

大阪では、5月に、岡山で精神障害者やホームレスの人々などに物件の仲介を行う阪井ひとみさん(阪井土地開発株式会社 代表)と、追い出し屋問題に取り組んで来られた徳武聡子さん(反貧困ネットワーク大阪事務局長)のお二人による「住宅困窮者のいま」と「民間借家活用の可能性」というテーマで開きました。

両日、延べ261人の多彩な参加者からは、委員会からの提案への質疑とともに「わたしの住宅問題」について報告や問題提起がありました。また大阪ではこの会を契機に、司法書士、社会福祉士、研究者などが参加する新たな支援ネットワークが発足しました。

※両日レポートは、「ビッグイシューオンライン」に掲載中です。

### 「ワーキングプアの居住実態調査」

5月の第4回「住宅政策提案・検討委員会」では、平山委員長が作成した「ワーキングプアの居住実態調査」の調査票案の検討を行いました。

年収200万円以下で働く「ワーキングプア」と呼ばれる人びとのうち、40歳以下、未婚、学生ではない、関西圏(兵庫・大阪・京都・奈良)、関東圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)在住、と対象を絞り、現在の居住状況について、インターネット調査を実施。1,700件のサンプルを回収しました。解析は進行中で、来期早々に委員会で結果をまとめ、報告書を作成します。

### これからの計画

委員会と共に、前期に実施した「ワーキングプアの居住実態調査」の結果をまとめ、市民が手にとって読むことのできる報告書を作成します。それをもとに、提案した政策を現実化するため、集会など具体的なアクションを伴った提案活動を行います。また民間による取り組みや、新たなネットワーク形成など、派生する市民的な動きとその広がりに応援します。

## 参加のチャンスを作る―ボランティア参加プログラム

東京と大阪では、毎月ボランティア説明会を開催しました。今期のボランティア登録者数は、東京 472 名、大阪 371 名の登録者の他、札幌、仙台、千葉、立川、三鷹、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地サポーターで約 162 名、あわせて計 1,005 名となりました。6 月には (有) ビッグイシュー日本と共同して「全国サポーターズ会議」を開き各地から 35 名が参加、路上の変化、ホームレス応援の課題などを共有しました。

この他企業の有志による、サッカーや英会話クラブなどスポーツ・文化活動プログラム、路上雑誌販売体験をする“道端留学”などへの参加がありました。

東京では6月に、「ボランティアカフェ」東京版を、ボランティア、そして当事者との交流の場として、ビッグイシュー誌のコラムニストで「アフリカゾウの密輸問題」解決のため現地で活動している滝田明日香さんを囲んで開きました。当日は大雨にもかかわらず 60 名以上の参加があり、終了後も滝田さんや参加者同士で活発な議論が交わされました。

大阪ではボランティア同士の交流の場として「ボランティアカフェ」を開催しました。企画・実行委員会も含め6回実施し、前年度好評を得た「釜ヶ崎散歩」や「販売者と人生について語る会」の続編のほか、販売者主催のウォーキングクラブ「歩こう会」とコラボレーションして「初夏の茶摘みボランティア体験会」を開催しました。

定例の参加プログラムとして、大阪で月 2 回の会報誌発送作業ボランティアと巡回サポートのボランティアを呼びかけ、毎月たくさんの方にご参加頂きました。また、基金事務所で随時提供されるおにぎりづくりボランティアや、大阪の定例サロンでは毎回ボランティアの方からの手作りお弁当の提供など、多様な形のご参加がありました。

## ボランティア説明会―東京・大阪で毎月 1～2 回開催

ホームレス問題やビッグイシュー基金の活動をより多くの人に知っていただくために、定例の説明会を開催しています。説明会へのご参加後、希望者にはボランティアメーリングリストに入ってください、定期的にボランティア情報をお伝えしています。

◇東京：第 2 土曜日 13 時～（場所：東京事務所）

◇大阪：第 2・4 土曜日 16 時～（場所：大阪事務所）

※ボランティア説明会への参加を希望される方は、ビッグイシュー基金（メール：大阪 info@bigissue.or.jp、東京 tokyo@bigissue.or.jp、電話：大阪 06-6345-1517、東京 03-6380-5088）までご連絡をお願いします。



滝田明日香さんを囲む市民の集い



ボランティアカフェ（大阪）



ボランティア説明会（東京）



初夏の茶摘みボランティア体験会

## 寄付参加プログラム——寄付はもっとも有効な社会への参加

市民応援会員は、にっこり (359名)、ひとり立ち (109名) 計 468名 (1,082万円)、企業・団体サポーターは5件 (275万円) でした。

第6期から始まった税制優遇による寄付参加メニューには市民応援会員からの移行も含め徐々に参加者が増え、出会い (236名)、つながりウォーク (179名)、実践応援ラン (70名)、社会包摂マラソン (54名)、市民信頼社会 (43名) 計 582名 (1,137万円) となりました。任意寄付は 638名 (580万円)、遺贈寄付は 2名 (1,025万円)、その他寄付 (チャリボン等) は 369名 (75万円) と、あわせて寄付参加者は延べ 1,591名 でした。今期は大口の遺贈寄付がありました。特に、ボランティアの方から、関東大震災と戦争を体験されたおばあさまのご遺志だと多額のご寄贈をいただきました。ありがとうございました。

会員と寄付参加者は合計延べ 2,064名、寄付金額では合計 4,174万円となり、今期は 5～6期の赤字を埋めて、黒字とすることができました。



出会い



つながりウォーク



実践応援ラン



社会包摂マラソン



市民信頼社会

物品による寄付については、ビッグイシュー基金を継続的にサポートしていただいている企業やボランティアの方より、衣料品や医薬品、生活用品などの提供があり、常時当事者が活用できました。

また住宅入居者には、必要な生活用品や家具の寄付を呼びかけ、随時のマッチングを行いました。

## 広報——ソーシャルメディアの活用

「誰もが包摂されるような社会」への広報活動としては、基金便りや基金通信「希望前線」を各 24回発行の他、ホームページ、ビッグイシューオンライン、Facebook、Twitter などのソーシャルメディアなどを活用し、情報発信を行いました。2013年9月には雑誌『ビッグイシュー日本版』が 10周年を迎えたことに伴い、基金も新聞・テレビ等メディアで多く取り上げられました。



Facebook ウェブサイト



基金通信「希望前線」

### メディア掲載 (新聞)

- 2013年11月24日 読売新聞 「住宅政策提案書」発表シンポジウム「市民が考える住宅政策」開催
- 2013年12月10日 毎日新聞 東京夕刊 「住宅政策提案書」の紹介
- 2013年12月16日 毎日新聞 「住宅政策提案書」発表シンポジウム「市民が考える住宅政策」開催
- 2014年4月1日 読売新聞 夕刊 若者ホームレスに関する基金の取り組みを紹介
- 2014年6月5日 THE JAPAN TIMES ソケリッサ! のアオキ裕キさんを紹介
- 2014年6月19日 信濃毎日新聞 「社会的不利・困難を抱える若者応援プログラム集」紹介
- 2014年7月23日 毎日新聞 夕刊 大阪のクラブ活動「野球部」を紹介
- 2014年8月10日 カトリック新聞 「社会的不利・困難を抱える若者応援プログラム集」紹介
- 2014年8月11・18・25日 岐阜新聞 夕刊 路上からはじまるもう一つのワールドカップ①～③
- 2014年8月16日 読売新聞 夕刊 開拓者たち(下)で基金について掲載
- 2014年8月25日 京都新聞 夕刊 路上からはじまるもう一つのワールドカップ①

### (雑誌)

- 2013年12月1日 GOETHE 野武士ジャパンのコーチ蛭間さんを紹介
- 2014年6月1日 COMVO 理事長佐野とクラブ活動「フットサル部」の紹介

## 古本でNPOを支援できるしくみ——チャリボン

ご家庭や職場で読み終わった書籍やDVDを株式会社バリューブックスにお送りいただくことで、社会課題解決に取り組むNPOを支援できる仕組みが「チャリボン」です。2013年4月の開始以来、2014年8月末までに495名の方から古本をお送りいただき、買い取り相当額の956,367円のご寄付をいただきました。チャリボンの仕組みや古本のご寄付を通じての社会参加については以下のサイトをご覧ください。

URL : <http://www.charibon.jp/partner/issue/>

## ありがとうございました——市民・組織・団体・企業の協力とご参加

### 【助成金】

独立行政法人福祉医療機構／公益財団法人パブリックリソース財団

### 【企業・団体寄付】

有限会社K・U・V／損保ジャパン日本興亜ちきゅう倶楽部／Salesforce.com Foundation／シティグループ／British Embassy FC／大和ハウス工業株式会社従業員／ドイツ銀行グループ／BNPパリバ・グループ／キーン・フットウェア株式会社／NMCギャラリー&スタジオ／株式会社北大路書房／UBS(UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社)／つるた勝巳税理士事務所／ランブル&ジャングル／キャピタル・インターナショナル株式会社／ゴールドマン・サックス／株式会社コスモスモア／株式会社ソフィアエステート

### 【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団 (ギブワン、<http://www.giveone.net/>)

株式会社バリューブックス (チャリボン、<http://www.charibon.jp/>)

一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン (ジャストギビング、<http://justgiving.jp/>)

### 【物資の寄付】

UBS(UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社) (医薬品、食品、衣料など)／認定NPO法人フードバンク関西(食品)／KISATO パワーストーン(衣類)／動物達の幸せを願う会(衣類、日用品)／どじょっこ農園佐渡(食品)／ブルームバーグ(日用品)／Aria Company(衣類)／株式会社CSJ 防錆包装研究会(衣類、日用品)／キーン・フットウェア株式会社(靴、サンダル)／ポートピアグリーンチーム(衣類)

### 【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人萌友／NPO 法人仙台夜まわりグループ／NPO 法人川崎水曜パトロールの会／NPO 法人さなぎ達／NPO 法人三多摩ホームレス支援機構／びよんどネット／金沢カトリック教会平和の会／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所 (社団法人関西厚生協会)／NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサポーターズ

# 決算報告

第5期、第6期にかけて活動体制の見直しや認定NPO法人化に伴う市民応援会費・寄付のしくみの変更を行ったため、両期で、計500万円程度の差損を出しました。これらを受けた、第7期では、寄付のしくみが安定しはじめたことなどもあって487万円の差益を出すことができました。この結果、第8期の活動へ293万円を繰りこすことができました。

## 【活動計算書 2013年9月1日～2014年8月31日】

科目	金額(単位:円)	
I 経常収入の部		
1. 会費収入		
年会費	13,700,000	13,700,000
2. 助成金・補助金収入		
助成金	7,013,100	7,013,100
3. その他収入		
寄付金	28,165,115	
受取利息	1,617	
雑収入	675,600	28,842,332
経常収入 計		49,555,432
II 経常支出の部		
1. 事業費		
人件費		
給料手当	8,975,749	
雑給	4,973,989	
法定福利費	1,659,238	
通勤費	1,329,387	16,938,363
その他経費		
家賃(光熱費含)	2,924,565	
通信運搬費	1,975,123	
消耗品費	1,692,096	
旅費交通費	3,807,503	
印刷製本費	1,588,787	
業務委託費	1,838,800	
諸謝金	1,895,885	
租税公課	450	
広報費	3,060,000	
会報費	2,912,360	
会議費	1,025,115	
研修費	132,337	
諸会費	40,000	
寄付金	140,000	
賃借料	999,477	
支払手数料	285,402	
雑費	224,434	24,542,334
2. 管理費		
人件費		
給料手当	477,573	
雑給	65,208	
法定福利費	72,885	
福利厚生費	77,597	
通勤費	35,979	729,242
その他経費		
家賃(光熱費含)	186,674	
通信運搬費	583,559	
消耗品費	319,026	
旅費交通費	383,850	
印刷製本費	213,675	
租税公課	151,350	
会議費	56,611	
研修費	2,000	
賃借料	161,906	
支払手数料	311,347	
雑費	107,085	2,477,083
経常支出 計		44,687,022
経常収支差額		4,868,410
当期収支差額		4,868,410
前期繰越収支差額		△ 1,934,188
次期繰越収支差額		2,934,222

### 注記 1) 事業費の内訳

事業費内訳	ホームレスの自立応援プログラム			ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案		ボランティア活動と市民参加	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化活動応援	若者応援ネットワーク	住宅政策提案		
人件費							
給料手当	3,007,237	1,452,680	771,652	2,049,201	1,018,106	676,873	8,975,749
雑給	1,032,921	35,811	214,901	3,224,698	253,344	212,314	4,973,989
法定福利費	494,416	217,107	187,909	474,123	148,251	137,432	1,659,238
通勤費	423,159	156,380	111,187	484,015	107,600	47,046	1,329,387
人件費計	4,957,733	1,861,978	1,285,649	6,232,037	1,527,301	1,073,665	16,938,363
その他経費							
家賃(光熱費含)	808,922	280,012	186,674	1,057,821	280,012	311,124	2,924,565
通信運搬費	77,032	23,787	37,253	450,195	31,959	1,354,897	1,975,123
消耗品費	595,105	120,709	243,176	272,730	126,411	333,965	1,692,096
旅費交通費	601,407	426,286	79,037	2,125,091	448,730	126,952	3,807,503
印刷製本費	218,450	0	0	901,170	464,437	4,730	1,588,787
業務委託費	120,000	0	0	0	1,718,800	0	1,838,800
諸謝金	99,774	28,000	0	1,388,611	319,500	60,000	1,895,885
租税公課	450	0	0	0	0	0	450
広報費	0	0	0	0	0	3,060,000	3,060,000
会報費	0	0	0	0	0	2,912,360	2,912,360
会議費	461,090	78,685	214,822	225,211	30,873	14,434	1,025,115
研修費	900	9,000	1,500	83,525	1,500	35,912	132,337
諸会費	40,000	0	0	0	0	0	40,000
寄付金	140,000	0	0	0	0	0	140,000
賃借料	355,804	53,580	239,380	186,300	103,713	60,700	999,477
支払手数料	6,531	216	10,292	24,996	5,199	238,168	285,402
雑費	106,904	21,149	81,719	6,180	8,482	0	224,434
その他経費計	3,632,369	1,041,424	1,093,853	6,721,830	3,539,616	8,513,242	24,542,334
事業費計	8,590,102	2,903,402	2,379,502	12,953,867	5,066,917	9,586,907	41,480,697

### 注記 2) 借入金の変動内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
借入金(流動負債)	2,500,000	0	2,500,000	0
合計	2,500,000	0	2,500,000	0

【貸借対照表 2014年8月31日現在】

科目	金額(単位:円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	676,204		
普通預金	4,164,404		
未収入金	110,000	4,950,608	
2. 固定資産			
		0	
資産合計			4,950,608
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	622,775		
前受会費	500,000		
仮受金	828,227		
預り金	65,384	2,016,386	
負債合計			2,016,386
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	△ 1,934,188		
当期正味財産 増加額(減少額)	4,868,410	2,934,222	
正味財産合計			2,934,222
負債及び正味財産合計			4,950,608

【財産目録 2014年8月31日現在】

科目・摘要	金額(単位:円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	676,204		
普通預金(三菱東京UFJ銀行)	3,453,761		
郵便振替	118,121		
普通預金(ゆうちょ銀行)	591,954		
普通預金(みずほ銀行)	568		
未収入金(会費クレジット分)	110,000	4,950,608	
2. 固定資産			
	0	0	
資産合計			4,950,608
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金(佐川印刷他)	622,775		
前受会費(社会・復帰サポーター)	500,000		
仮受金(㈱ビッグイシュー日本)	828,227		
預り金(源泉所得税及び住民税)	65,384	2,016,386	
			2,016,386

監査報告

1 監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2 監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2013(平成25)年9月1日から2014(平成26)年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。

2014(平成26)年10月7日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木原万樹子



ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に07年9月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12年7月1日に認定NPO法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は以下の3つを柱に事業を行っています。

- ① ホームレスの人々への自立応援（当事者への情報提供、生活自立、仕事・就業応援、文化・スポーツ活動応援、被災地支援）
- ② ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案（社会的困難を抱える若者応援ネットワーク、住宅問題などの政策提言など）
- ③ 市民のボランティアや社会参加活動

などの多様な応援プログラムを、市民とともに実施します。貧困問題と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決を通して、誰にでも居場所と出番を持てる包摂社会の形成をめざします。

### 「機会」豊かな市民信頼社会——ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、社会的企業である(有)ビッグイシュー日本の、自立の応援、モノやおカネではなく「チャンス」の提供、ホームレス状態にある人々をビジネスパートナーにする、という事業を母体に生まれました。基金は多くのNPOや企業や政府とも協力してホームレスの人々が一層の「自助」、「自立」ができるようサポートすることを基本理念としています。

また、市民応援会員をはじめ市民寄付者などを中心に、多くの市民とともに、市民同士の共同を促進し、市民が当事者になれるような活動を行いつつ、再チャレンジしやすい「機会の豊かな」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、上記の3つの基本応援プログラムの他、ホームレスの人々が望めばダンス、サッカー、文学賞など、さまざまなクラブ活動に参加することができます。そして、当事者として、多様に表現し、生きる喜びや誇り、希望をもって、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。このような活動を通して、社会全体がいきいきとした力を取り戻せるよう、ホームレスの人々とともに貢献したいと願っています。

団体概要	
□ 名称	認定NPO法人 ビッグイシュー基金
□ 設立	2007年9月設立、2008年4月内閣府よりNPO法人の認証、2012年7月認定NPO法人格取得
□ 所在地	[事務局本部] 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階 Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358 E-mail info@bigissue.or.jp [東京事務所] 〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 シンカイビル201号室 Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074
□ 役員	理事長 佐野 章二 (有限会社ビッグイシュー日本共同代表) 理事 井上 英之 (慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授) 枝元 なほみ (料理研究家) 米本 昌平 (東京大学客員教授) 水越 洋子 (『ビッグイシュー日本版』編集長) 監事 木原 万樹子 (木原法律事務所弁護士) 相談役 雨宮 処凛 (作家)
□ スタッフ	瀬名波 雅子 岡 和範 長谷川 知広 中村 未絵 吉武 華子 津端 幸江 高野 太一 栗原 奈津子

#### (※) 有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助・自立を促すために雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらい、その売り上げの50%以上を収入にしてもらうという仕組みをつくっています。03年9月から14年8月までの11年間で1,563人が販売者に登録し、173人が仕事を得て自立しました。また、累計651万冊を販売、9億3,256万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。

**寄付** 税制優遇の対象です。寄付額の「(寄付金合計額-2千円) × 40%」が納付税額から返金されます。(雑誌送付などの特典なし)



出会い寄付 5,000 円/1口

(返金額は1,200円です)



つながりウォーク寄付 10,000 円/1口

(返金額は3,200円です)



実践応援ラン寄付 20,000 円/1口

(返金額は7,200円です)



社会包摂マラソン寄付 50,000 円/1口

(返金額は19,200円です)



市民信頼社会寄付 100,000 円/1口

(返金額は39,200円です)

- 任意額寄付 事務手続き上1,000円からの受付となります。
- 法人寄付 損金算入限度額の枠が拡大されます。
- マンスリー寄付 月額1,000円×1口～。(HPから受け付けています)
- 遺産・相続寄付 寄付された相続財産には相続税がかかりません。

**市民応援会員** 特典があります。(税制の優遇対象外)



にっこり応援会員 年会費：15,000円

【特典】年次報告書(年1回)の送付

「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付&最新号にお名前を掲載



ひとり立ち応援会員 年会費：50,000円

【特典】年次報告書(年1回)の送付

「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付&雑誌に1年間お名前を掲載、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待(年1回)

**企業・団体「社会再生」サポーター** 特典があります。(税制の優遇対象外)

キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000円

社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000円

社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000円

<振込み> 郵便振替：口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金  
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先(お名前、郵便番号、ご住所、電話番号)を明記ください。  
<クレジットカード> ビッグイシュー基金のホームページ (<http://www.bigissue.or.jp>) からご利用いただけます。  
銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所(06-6345-1517)までお問い合わせ下さい。  
※個人の方のご寄付の領収書は1月～12月入金分をまとめて翌年1月下旬に発行・送付させていただきます。  
(これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から一定額が返金されます)



2014年11月15日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4F

TEL : 06-6345-1517 FAX : 06-6457-1358

(東京事務所) 〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 シンカイビル201号室

TEL : 03-6380-5088 FAX : 03-6802-6074

E-mail : [info@bigissue.or.jp](mailto:info@bigissue.or.jp) URL : <http://www.bigissue.or.jp>